

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2670600424
法人名	有限会社 カスタネット
事業所名	グループホーム カスタネット
所在地	〒606-0024 京都府京都市左京区岩倉花園町401 (電話) 075-703-2470

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年11月17日	評価確定日	平成21年12月25日

【情報提供票より】平成21年10月1日

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 24 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.87 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	25,400 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	120 円
	または1日当たり 1,320 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低 75歳	最高 101歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都民医連洛北診療所・祐森歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、利用者本位の生活や理念を基本としたレクリエーションを取り入れ散歩やドライブを日常の活動としており、ホームだけで過ごす事のないように努めています。利用者の役割を持って生活ができるように役割分担表を作り掃除や料理、後片付け、洗濯など一人ひとの力を活かす場面作りに取り組んでいます。出来る事を最大限に活かし、皆が1つの家族としての生活を送り、今までの生活歴や得意な事を大切に活かしています。また、3か月ごとに「カスタネット便り」を発行し、コメントや行事ごとの様子を写真に収め、ほほえましく楽しい様子が伝わってきます。利用者の笑顔を一に家庭的で暖かいホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の課題であった地域との交流では近隣のスーパーで買い物をしたり、ボランティアの来訪時には地域の方に呼びかけ参加してもらうなど出来ることから取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全職員に思いを記入してもらい管理者が再確認しまとめました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者や家族、自治会長、民生委員、老人クラブ、地域包括支援センター職員、元警察長補導員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームから広報誌を配布して活動内容を報告し、インフルエンザなどについて話し合っています。また、参加者から意見やアドバイスを頂き有意義な場となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームでの行事や運営推進会議、家族の集いなどに多くの家族参加があり、直接コミュニケーションを取り意見や要望を聞いています。また、来訪時には家族が何でも話してもらえるような信頼関係作りにも努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入して神社のお祭りや敬老会に参加し、お地蔵さまにお供えなどを行っています。月に2回の音楽療法や生け花、朗読会などのボランティアの来訪があり地域の方にも参加を呼びかけています。また、以前は小学生が遊びに来ていましたが、今後また来てもらえるよう検討しています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で暮らし続けることや日々の生活の中でレクリエーションを取り入れ楽しく暮らせるように職員全員で話し合い思いを込めてホーム独自の理念を作られました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに利用者が毛筆で書いた理念を掲示していません。職員はいつでも見ることができ、理念に基づいたケアが出来ているか振り返り、カンファレンスや会議で話し合い取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、神社のお祭りや敬老会に参加しています。月に2回の音楽療法や生け花、朗読会などボランティアの来訪があり地域の方にも呼びかけています。また、以前は小学生が遊びに来ていましたが、今後また来てもらえるよう検討しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は全職員に思いを記入してもらい、管理者が再確認しまとめました。前回の改善点であった地域との交流では、近隣のスーパーで買い物をしてボランティアの来訪時には地域の方に呼びかけ参加してもらうなど出来ることから取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、自治会長、民生委員、老人クラブ、地域包括支援センター職員、元警察署長補導員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームから広報誌を配布して活動内容を報告しインフルエンザ対策などについて話し合っています。また、参加者から意見やアドバイスを頂き有意義な場となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり情報や研修案内を得ています。市町村主催の事業者連絡会にホームのケアマネージャーが参加し相談や交流する機会を持っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料を持参される家族が多くあり、来訪時にはその都度日々の様子を伝えています。また行事や外出時・ホームでの様子を写真に収めコメントを入れアルバムのような「カスタネット便り」を3か月に1回、発行しています。また、金銭管理は立て替え金対応で収支報告と領収書を一緒に送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでの行事や運営推進会議、家族の集いなどに多くの家族参加があり、直接コミュニケーションを取り意見や要望を聞いています。来訪時には家族が何でも話してもらえるように信頼関係作りに努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者は少なく、ボーリング大会や食事会、忘年会など福利厚生が充実させ、働きやすい環境が整っています。また、管理者は何でも話せるように心がけています。新任職員にはベテランの職員について関わりやケアの仕方、利用者の情報を教えてもらいながら少しずつ馴染めるようにし、利用者へのダメージが少ないよう努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修に参加しています。参加後は報告書を作成し伝達研修をしています。また、協力医療関係者から医療や認知症、嚥下時の対応などについての勉強会をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しています。相談や情報交換、交換研修を行い改めてホームを知る機会がありサービスの向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には利用者や家族に見学に来てもらい、ホームの雰囲気や様子を見てもらっています。入居が決まれば、家庭訪問をして生活歴を聞き、会話や声掛けしながら少しずつ馴染んでもらえるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活する中で、利用者の経験してきた事などから多くの事を教えてもらっています。利用者を理解し尊重し、何でも話し合える関係作りに努めています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の情報を基にセンター方式やアセスメントシートを使用し多くの情報を得ています。何気ない会話や表情からも見逃さず状況に応じての行動が把握できるように努めています。	○	日々のケアから把握している本人の意向や希望をケアマネジメントに反映させることを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	来訪時に家族からの希望や要望を取り入れ、毎月モニタリングや全職員が参加するカンファレンスを行い一人ひとりに合った介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月に1回見直しをしています。ケアプランに反映した課題表でチェックし見直しに繋がっていますが、記録には残されていません。今後、誰が見てもわかりやすい様式に変えたいと考えています。	○	本人や家族の方が分かり易い様式等へ変更について職員間での検討されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望にそって一緒に自宅を見に行ったりドライブを兼ねて道の駅などに行き、食事メニューから好きなものを選んでもらい食べています。希望や要望があれば、すぐに対応ができるように職員は体制を整えています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に今までのかかりつけ医を継続できることを説明しています。週に1回の協力医の往診があり24時間緊急時にも対応してもらえるように連携を持っています。また、週に1回の訪問看護でバイタルチェックしてもらい、必要に応じて訪問歯科や皮膚科の往診も受けられます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用前には、ホームでの対応指針を書面で交わしています。今までも経験があり、早い時期の話し合いを持ち重度化になった場合には、医師や家族と話し合い方針を共有しながら取り組んでいます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いには気をつけています。伝達事項は、利用者のイニシャルで呼び解らないように配慮しています。また、個人情報などの記録物は、リビングの棚に適切に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで利用者のペースやリズムに合わせて、自由で束縛のない生活を支援しています。レクリエーションも取り入れ楽しい時間や生活が送れる様に心がけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から調理、配膳、後片付けまで一連の流れを一緒にしています。コミュニケーションの場、利用者の力を活かせるように利用者の当番表を作り皆で取り組んでいます。また、職員も同じテーブルに付き同じものを食べ会話を楽しみながら楽しい時間を作っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	15時30分から17時30分位まで2日に1度を目安に入浴しています。希望があれば毎日や朝、夜間も入ることが出来るように準備し、3種類の入浴剤を使いながら体調に合わせて入浴を楽しんでいます。また、入浴拒否傾向の利用者には、言葉かけやタイミングを工夫しながら入浴ができるように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の役割分担表を作り、掃除や料理、後片付け、洗濯などを役割としています。日々の散歩やドライブ、歌を唱う、習字など利用者の得意分野も活かしながら楽しみや気晴らしの支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、季節に合わせた紅葉狩りやイモ掘り、食材の買い物など希望や要望に応じて出かけています。また、家族と利用者が一緒に外食や植物園に出かけたり、旅行、自宅への外泊などもできるように支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けず束縛せず自由な暮らしを支援しています。見守りを怠らず居場所を確認し鍵をかけないケアに取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練をしています。一度は消防署立会いの下行われる他、ホーム独自でも行っています。また、火災報知機やスプリンクラーを設置し出火場所の確認ができるよう体制を整えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量や水分量を記録しています。献立は利用者の希望も取り入れながら野菜が多く取れるようにしています。また、利用者の嚥下や咀嚼状態に合わせ粥や刻み食などに対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除が行き届いており、皆が集まるリビングでは1つの家族のように集まり居心地よく過ごされています。習字や干支の貼り絵などを飾り、天井はアーチ状になっています。空模様の壁紙を貼り圧迫感がなく、ソファを置きひと休みが出来る空間があります。季節の花を生け、利用者の飼い猫が皆の癒しとなっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながらタンスやぬいぐるみ、机、椅子などを持ち込んでもらい家族や孫の写真、職員から誕生日に頂いた写真などを飾り居心地よく過ごせるように工夫しています。また、コップや茶わん、おはしなども持ってきてもらっています。		